

| | |
|--------------|-------------|
| 講義科目 : 自然と科学 | 単位数 : 2 |
| 担当 : 狩野 幹人 | 学習形態 : 選択科目 |

講義の内容・方法および到達目標

- ・1985年アメリカ発のプロパテント（知的財産，特に特許重視）を経て、2004年からは、アメリカやヨーロッパ、日本をはじめとするプロイノベーション（イノベーション重視）の時代となった。イノベーション（価値形成）の形態は多種多様であるが、その1つは科学・技術に立脚している。
- ・本講義では、「科学」のうち、とくに自然を対象とした「自然科学」とは何か？について、その歴史も含めて焦点をあてる。また「科学」「自然科学」と「技術」との関係について、「技術」とは何か？も含めて解説する。また「科学・技術」を保護するための知的財産や、「科学・技術」の発展の基盤となる「倫理」との関係についても解説する。
- ・「科学」「技術」の本質を学び、「科学・技術」がイノベーションに果たす役割について理解することを目標とする。

授業計画

- 第1回 ガイダンス（科学とは）
- 第2回 科学と自然科学
- 第3回 近代科学のはじまり－宗教と科学、中世ヨーロッパ、大学
- 第4回 技術とは（1）－科学と技術の関係を中心として
- 第5回 技術とは（2）－産業革命後の科学・技術の発展
- 第6回 知的財産とは
- 第7回 科学・技術と知的財産（1）－科学・技術の発展と知的財産の役割
- 第8回 科学・技術と知的財産（2）－IT革命後の知的財産の役割
- 第9回 イノベーションとは
- 第10回 科学・技術とイノベーション（1）－イノベーションと技術革新
- 第11回 科学・技術とイノベーション（2）－プロイノベーションとは？
- 第12回 日本における科学・技術の発展とイノベーション
- 第13回 科学・技術と戦争
- 第14回 科学・技術と倫理（1）－法と倫理、研究・開発における法令遵守
- 第15回 科学・技術と倫理（2）－研究・開発におけるリスクマネジメント

教材・テキスト・参考文献等

- ・教科書は使用しない。必要な資料を、講義の中で随時配布する。
- ・参考文献としては、
「科学・技術と現代社会 上・下、池内了、みすず書房（2014）」
「イノベーションのジレンマ、C. M. クリステンセン、翔泳社（2001）」
等が挙げられる。その他、参考文献については、講義の中で随時紹介する。

成績評価方法

- ・毎回出席をとる。出席率70%以上を評価の対象とする。
- ・その上で、レポート（2回を予定）により評価する。

実務経験

大学の産学連携・知的財産部門において研究と実務に従事する他、大学院においてイノベーションに関する講義や研究指導に従事。最高裁判所専門委員（知財訴訟）、安全保障貿易自主管理促進アドバイザー（経済産業省）も兼務。内容の暗記ではなく、理解・考えてもらえるよう工夫したい。